

(別紙 15) 団体むけ<屋内作業 (非接触)>

ボランティア活動時の感染症予防のために

<屋内作業 (非接触)>

「屋内作業 (非接触)」とは、被災した家屋内での土砂撤去や家財搬出、清掃等、ボランティア同士やボランティアと住民の間合いが常に 2m 以上確保できる屋内での作業を指します。一般的に換気も充分されているため対策は屋外作業に準じますが、間合いが近づく場面が起こりやすいので原則マスクをして作業しましょう。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
屋内 (非3密)	中	中	中	中	中

<活動に入る前>

○ 活動現場のリスクを確認する

- 作業に入る前にメンバー全員で作業場所の危険箇所 (足元・頭上・段差・突起物等) を確認しましょう。被害を受けた家屋など危険性が高い現場の場合、必要に応じて建築の資格を有する方にアドバイスを受けましょう
- 安全対策に必要な装備を整え、装備がない場合は作業を中止しましょう (壁や天井をはがす作業を行う際はアスベスト対策のため N95 マスクが必要となる場面があります)
- 搬出の通路上等間合いが取れなくなる場面が起こりやすいので、原則として全員がマスクを着用するようにしましょう
- 窓や扉は常時開放し、屋外同様の換気を確保しましょう。床下など密閉空間で作業する場合は扇風機や送風機などを利用して強制的に換気しましょう

<活動中>

○ 打合せをする際

- ボランティア同士や住民と作業内容について打合せをする際は必ずマスクをしましょう
- 打合せをするメンバーを指定して、住民と近距離で接触する人数を最小限に留めるようにしましょう

○ 昼食/休憩時

- 昼食/休憩に入る時は石けん流水手洗いまたはアルコール手指消毒をしましょう
- 2m 以上の間合いを確保しましょう × 向かい合って座らないこと
- 屋内で食事/休憩をする場合は換気をしましょう
- 食事やおやつは個別配膳しましょう
 - × 箸やトングを共用しないこと
 - × 飲みものを回し飲みしないこと

○ 疲労・熱中症対策

- マスクをしての作業は疲労が強くなることもあり、熱中症のリスクもあがります。定期的に休憩を取れる体制で活動しましょう。
(2 班体制 30 分交替で活動を行う等)
- 風通し良く日陰で、充分に間合いがとれる休憩スペースを確保しましょう。

<活動後>

○ 帰路での3密回避

- 疲れから集中力が低下しやすいので帰宅までの感染対策を再確認して解散しましょう
- 夕食時/入浴施設等を利用する際も3密回避を意識しましょう